

狂言「謀生種」(和泉流)中村修一 狂言「千鳥」(和泉流)深田博治

平成30年6月10日(日) 午後2時始



主催 横浜能楽堂(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

横浜能楽堂普及公演——横浜狂言堂——
平成三十年六月十日(日)午後二時始

狂言組

〈お話〉

深田 博治

謀生種

シテ(甥)

中村 修一

アド(伯父) 高野 和憲

後見 石田 淡朗

〈休憩〉

千鳥

シテ(太郎冠者)

深田 博治

アド(主) 月崎 晴夫
少アド(酒屋) 内藤 連

後見 中村 修一

狂言「謀生種」
ほうじょうのたね

甥はいつも伯父の嘘に騙されてばかりいるので、今日こそは逆に騙してやろうと伯父の家を訪ねます。ホラ話をいくつも用意して意気揚々と挑みますが、どうしても伯父に言い負かされてしまいます。降参した甥が、嘘の話が上手になる秘訣を聞くと、伯父は「謀生の種」という嘘の種をやろう、と言います。甥は庭の土をあちらこちら掘り返しますが、その種は見つかりません。さて、「謀生の種」とは一体どこにあるのでしょうか。

狂言「千鳥」
ちどり

主人は、太郎冠者に支払いのたまっている酒屋に行つて、今日もツケで酒を買つて来いと命じます。酒屋のところへ出かけて行つた太郎冠者ですが、やはり酒をわけてもらえません。そこで太郎冠者は、なんとか酒を手に入れようと、尾張の津島祭に行つた話を始めます。太郎冠者はこどもが浜辺で千鳥を捕まえる話をしながら、酒樽を千鳥に見立て、酒屋に囃はやさせます。隙を見て太郎冠者は謡い舞いながら酒樽を持つて行こうとしますが上手くいきません。次に流鏑馬やぶさめの様子を話し、馬に乗る真似をしますが……。祭りの様子を、身ぶりをまじえて演じる太郎冠者の奮闘ぶりが見どころです。

〈終了予定時刻 午後三時二十五分頃〉